

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

2014年 秋号 (通号 61号)

NEWS from NANBATAJO

編集・発行/富士見市立難波田城資料館

市民学芸員 3年目に振り返って

私が難波田城を知ったのは、私の子供が小学生の頃だと思います。車で通りすがりに目にした案内板の「城」という文字に引き寄せられるように車を停めていました。もう35年位前になります。

それというのも、故郷福島県二本松市には、霞ヶ城公園があり、入口から続く石垣は今も往時の名残を伝えており、春は桜、秋には菊人形などで賑わっています。天守閣から見える安達太良連峰や、阿武隈川の様子は、まさに智恵子抄の世界です。

そんな私が今、市民学芸員として難波田城公園に携わっているのも、何かの縁かもしれません。市民学芸員になり2年数ヶ月が経ちました。その間に、市民学芸員制度の発足の経緯なども知り、その責任の重さを改めて痛感しています。また最初の頃は先輩の方々の仕事ぶりにただ圧倒され、不安でいっぱいでした。しかし、管外研修等交流の時を経るに従い、少しずつ雰囲気になれてきました。また、ガイドの仕方も覚え、今では伝えることの楽しさ嬉しさを感じています。



社会科見学の様子

例えば、小学生の社会科見学で、私が子供の頃手伝った縄ない、脱穀等を、小学生が小さな手で一生懸命に取り組んでいる姿を見ると感動し、応援したい気持ちになります。この体験はこれからもできる限り手伝っていきたいと思っています。

5月5日、こどもの日の五右衛門風呂入浴体験をみると、そこには、今も昔も変わらぬ子供達の満足そうな顔があり、こちらも心が和みます。子供達にとっても貴重な体験だと思っています。

6月第一日曜日に行われる難波田城公園まつりは、

市民学芸員 菅野 正道

例年天候に恵まれ、青空のもと行われる鉄砲隊の演武は豪快そのものです。また私は、槍持ちとして演武に参加することもできました。演武後の激しい疲労感、先人たちがいかに強靱な肉体を持っていたかを想起させます。このまつりを一人でも多くの人に見ていただき、将来はまちの一大イベントとなるように自分たちがもっと情報を発信しなければと思っています。



古民家結婚式 松明くぐりの様子

他に印象に残っているイベントに、一昨年行われた古民家結婚式があります。幸い私も花嫁さんの松明くぐりのお手伝いことができました。このことは大変光栄でしたし、一生の思い出です。

最近ガイドをしていて思うことは近隣市の来園・来館者が多く、市内の方が相対的に少ないことです。

そんなことが頭にあって、先日、私が通っている市の健康増進センターの仲間11人ほどで野外教室の名目で難波田城公園を見学しました。皆さん聞いたことはあっても実際に見学するのは初めての人がほとんどで、市内にこんなに整備された歴史公園があったこと、また古民家の茅葺、梁、土間などに圧倒された様で感心しきりでした。これからも機会をとらえて、微力ながらもふるさと富士見を、そして難波田城公園、水子貝塚公園の情報を発信し続けたいと思います。



野外教室 記念写真

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員(広報担当)が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

「欄間」
らんま

欄間は、主に部屋と部屋の境目や部屋と廊下や縁側との境目にある化粧部材です。襖ふすまなどを立て込む横木である鴨居かもしと天井との間にあります。古くは、奈良時代の神社建築に見られますが、富裕の商家や豪農などの民家に取り入れられたのは、江戸時代中期以降とされています。欄間の主な目的は、採光、通風、換気、装飾などです。欄間の種類は、使われる場所、意匠により分類されます。

明治4年(1872年)に建てられた旧大澤家住宅の母屋には、名主の家にふさわしく、オクザシキとナカノマの間に、透し彫り欄間があります。ナカノマから向かって右側には、二羽の立つ鶴と松の木の模様が彫られています。左側には、松の木の上が飛ぶ三羽の鶴が彫られています。オクザシキには、牛や蝶、鳥居などをかたどった透し彫りの書院欄間があります。また、土間からオモテザシキに上がるところには、旧金子家住宅にも見られる組子欄間くみこがあります。古民家の欄間は、その家の格式の高さを感じ取ることで見どころです。(古澤立巳)



旧大澤家 組子欄間



旧大澤家ナカノマ 透し彫り欄間



旧大澤家オクザシキ 書院欄間

おもしろ・なつかし体験④

次世代の学芸員を育む

—難波田城資料館で博物館実習—

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

「博物館法」に定める「学芸員」になるためには大学で所定の科目を履修したうえで、博物館の現場で実習を経なければなりません。難波田城資料館でも、このような次世代の学芸員を目指す実習生を受け入れています。

今年は大學生3名が7月31日から8月13日まで実働10日間のハードな日程で、様々な資料の整理、企画展の準備や、施設の維持・管理まで総合的な実務の習得に取組みました。また実習期間中には、当館恒例の教育普及事業である「古民家宿泊体験」や「田んぼ体験隊のかかし作り」があり、裏方仕事に

も汗を流していました。

最終日8月13日には、複数のテーマから課題を選択し発表する「発表実習」に同席する機会がありました。実習生3名は、いずれも古民家を用いたイベントの企画立案というテーマを選択していました。コスプレを用いたイベントの提案など、若者達の既成概念に捉われないユニークな内容で感心しました。この実習を機会に、彼等をはじめより多くの若者達が難波田城資料館を訪れる日を期待しています。

(西尾勉)



宿泊体験では工作の指導も



発表実習の様子

人の創ったモノ★人の使ったモノ

穀蔵展示はかる道具(H27/8 月上旬まで)より

度量衡

長さ(度)かさ(量)重さ(衡)に関する単位や制度などをまとめて「度量衡」と呼びます。現在、穀蔵では、これらに加え、時間や温度を計る道具も展示しています。計測用具は政府による検定が必要で、専門業者が製作します。このため、道具自体に地域の特徴は表れにくいのですが、裏面に残された墨書などに、地域の歴史が反映しています。

名主の家の一斗枡

大久保村(現・東大久保地区)の名主を務めていた大澤家から寄贈された一斗枡には、明治元年(1868)に入手したことを示す墨書があります。

明治時代の初め、度量衡や村の仕組は江戸時代のままでした。斜めの「弦鉄」で補強する枡の製法は旧来のままですし、年貢は名主の屋敷に集められました。この枡は、年貢米の量を確かめるために使われたでしょう。その後、弦鉄は廃止され、一斗以上の枡は円筒形になりました。また、地租改正(1873年)により、米ではなく税金を収めるようになりました。この枡は「年貢」の時代をしのばせる物証です。



旧大澤家の一斗枡

水谷村役場の銀秤

かつて、重さをはかる道具として最も多く使われたのが棹秤です。天秤は、はかる対象と同じ重さになるように分銅を組み合わせますが、棹秤は錘をぶら下げる位置を動かし、バランスが取れた位置で重さがあるので手間がかかりません。数グラムのものはかる小形の棹秤は、携帯用のヒョウタン形の容器に納まり、「銀秤」と呼びます。これは、江戸時代の銀が、重さで価値が決まる「秤量貨幣」だった名残りです。

今回展示した銀秤には「明治四十年五月一日水谷村役場」という墨書があります。水谷村役場は、明

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

治 39 年(1906)12 月に全焼し、当時は性蓮寺に間借りしていました。この秤は、焼失した備品をそろえ直す過程で入手したのでしょう。



水谷村役場の銀秤 (棹が半分以上欠落)

鶴瀬小学校の一升枡

底面に「鶴瀬小学校」の焼印が押された一升枡があります。側面には「購入 昭和十七年四月」と墨書されています。鶴瀬小学校は、戦時体制のため前年から「鶴瀬国民学校」になっていましたが、焼印はそのままだったのでしょう。米穀配給手帳が制度化されたのは昭和 17 年(1942)でした。この枡が授業用か実用品かは不明ですが、米を食べる量すら自由でなかった時代の、生き証人といえるでしょう。



鶴瀬小学校の一升枡

豆知識 重さ 1 匁の硬貨



重さの単位の「匁」(3.75g)は、中国の硬貨の重さに由来する単位です。江戸時代の寛永通宝も、初期は同じ重さでした。明治時代の硬貨はそれと無関係に作られましたが、大正時代から、1 銭銅貨や 10 銭白銅貨を 1 匁の重さで作るようになりました。現在も、5 円玉は、重さ 3.75g と定められています。

(早坂 廣人)

秋のイベント予定

●企画展情報

平成 26 年秋季企画展「新収蔵資料展」

ここ数年、市民や学校などから寄贈していただいた富士見市の歴史や暮らしをものがたる資料を展示します。

会期／10月18日(土)～12月28日(日)

会場／特別展示室

穀蔵テーマ展示「はかる道具」

長さ・重さ・体積など、いろいろな物や事をはかる道具を展示しています。

会期／8月9日(土)から約1年間

会場／穀蔵展示室

●第 23 回ふるさと探訪

東上線開設 100 周年を記念して、鉄道記念物と沿線の文化財を訪ねます。

とき／10月4日(土) 午前9時30分～午後3時

定員／30人(申込順) 参加費／500円

申込み／9月2日(火)～10月1日(水)に電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9月15日(祝) 午前10時～正午

定員／8組(申込順) 参加費／1組500円

持ち物／エプロン、三角巾、持ち帰り容器

会場／旧金子家住宅

申込み／8月31日(日)～9月7日(日)に電話で

●拓本体験教室

古代中国から伝わった複写技法の拓本を体験します。石碑の文字を和紙に写し、色紙の作品に仕上げます。

とき／10月19日(日)10時～15時

ところ／講座室

定員／8人(申込順)

参加費／500円(材料代)

持ち物／昼食

申込み／随時。直接または電話で

指導／資料館友の会拓本部会



●古民家コンサート

古民家に響く歌声をお楽しみください。

とき／10月26日(日)午後1時30分～2時

ところ／旧大澤家住宅

歌唱者／新音楽集団「匠(たくみ)」(尚美学園大学)

演目／なつかしのメロディーなど 参加費／無料

定員／100名程度。当日先着順

主催／難波田城公園活用推進協議会、難波田城資料館

●ふるさと体験 わらぞうり作り

とき／11月2日(日) 午前9時30分～午後3時

ところ／講座室

対象／中学生以上 定員／10人(申込順)

参加費／300円(材料代)

持ち物／ハサミ、鼻緒用の木綿布2本、軍手など

申込み／随時。直接または電話で

指導／いなほの会

●さつまいも掘り

公園に隣接する畑で芋掘りの体験です(試食あり)

とき／10月26日(日) 午前10時～正午

定員／30組(申込順)

集合場所／旧金子家住宅前

参加費／1組1,000円

持ち物／持ち帰り用の袋、シャベル

申込み／10月1日(水)9時受付開始

主催／難波田城公園活用推進協議会、難波田城資料館

※各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどをご覧ください。

●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月28日(日) おはぎ

10月26日(日) ふかしいも

11月23日(日) 手打ちうどん

※時間は午前11時から。売切れ次第終了です。

〈閉園時間について〉

10月から3月の間、公園の閉園時間は午後5時です。

資料館と古民家の閉館も午後5時です。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)